内科専門研修プログラム　2024 年版

研修期間:3 年間

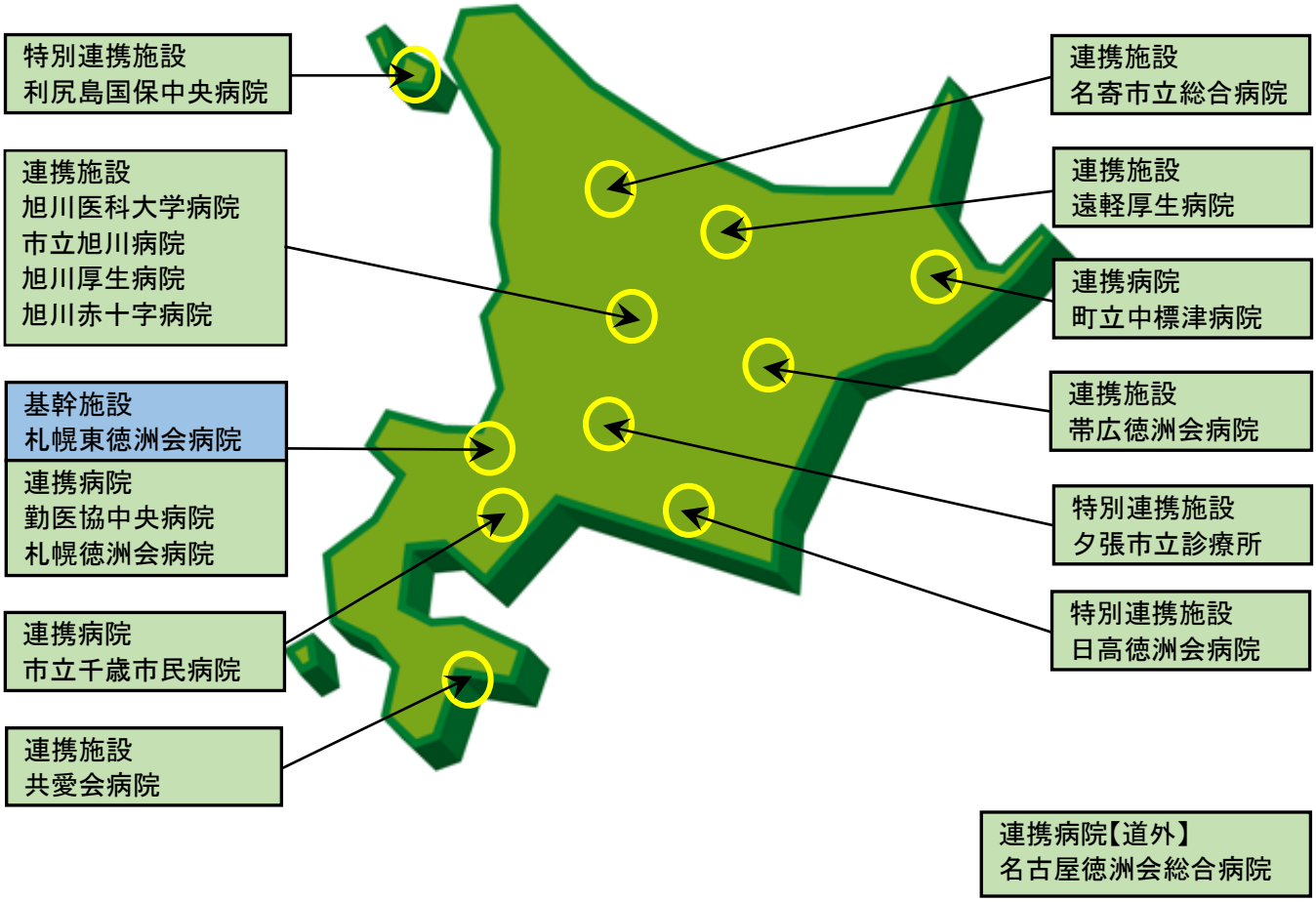
内科基本コース

基幹施設 1 年(必修)＋連携施設 1 年(必修)＋基幹・連携・特別連携 1 年（地域医療施設 3 ヶ月含む）

サブスペシャリティコース

基幹施設 1 年(必修)＋連携施設 1 年(必修)＋基幹・連携・特別連携 1 年（地域医療施設 3 ヶ月含む）

札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群



理念・使命・特性

1　理念【整備基準1】

1） 本プログラムは、北海道札幌市医療圏の中心的な急性期病院である札幌東徳洲会病院を基幹施設として，旭川医科大学病院　勤医協中央病院　札幌徳洲会病院　市立千歳市民病院　帯広徳洲会病院　市立旭川病院　旭川厚生病院　旭川赤十字病院　名寄市立総合病院　遠軽厚生病院　町立中標津病院　共愛会病院　名古屋徳洲会総合病院　利尻島国保中央病院　夕張市立診療所　日高徳洲会病院の連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て北海道の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として札幌市と北海道各地域を支える内科専門医の育成を行う。

2） 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得する。
内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力である。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力である。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴がある。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を養う事を可能とする。

② 使命【整備基準2】

1） 北海道札幌市医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、
①高い倫理観を持ち、 ②最新の標準的医療を実践し、 ③安全な医療を心がけ、
④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行う。

2） 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研績を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポート出来る研修を行う。

3） 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行う。

4） 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行う。

③ 特性

1) 本プログラムは、北海道札幌市医療圏の中心的な急性期病院である札幌東徳洲会病院を基幹施設として、旭川医科大学病院　勤医協中央病院　札幌徳洲会病院　市立千歳市民病院　帯広徳洲会病院　市立旭川病院　旭川厚生病院　旭川赤十字病院　名寄市立総合病院　遠軽厚生病院　町立中標津病院　共愛会病院　名古屋徳洲会総合病院　利尻島国保中央病院　夕張市立診療所　日高徳洲会病院の連携施設・特別連携設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練される。研修期間は内科基本コースが基幹施設 1 年(必修)＋連携施設 6 ヵ月(必修)＋基幹・連携・特別連携 1 年 6 ヵ月(選択必修)、サブスペシャリティコースは基幹施設 1 年(必修)＋連携施設 1 年(必修)＋基幹・連携・特別連携 1 年(選択必修)である。＊基幹施設以外での研修を 1 年以上行うこと

2) 札幌東徳洲会病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境　調整をも包括する全人的医療を実践する。そして、個々の患者に最適な医療提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とする。

3) 基幹施設である札幌東徳洲会病院は、札幌市の医療圏の中心的な急性期病院であるとともに地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもありコモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験出来る。

4) 本プログラムの特性として、専門研修(専攻医)期間は 3 年間であり、基本コースが基幹施設 1 年(必修)＋連携施設 6 ヵ月(必修)＋基幹・連携・特別連携 1 年 6 ヵ月(選択必修)、サブスペシャリティコースは基幹施設1年(必修)＋連携施設 1 年(必修)＋基幹・連携・特別連携 1 年（選択必修)である。
総合診療部は平成 19 年に、それまではっきりとした担当科がなかった救急部門と、総合内科と名乗りながら内科疾患にかかわらず診療していた部門をあわせる格好で、「救急総合診療部」が設立されました。
その後、救急車受け入れは 4000 台/年から 10000 台/年へと大きく増加し、内科外来、救急外来、病棟を同じ部門がカバーすることは困難になりました。平成 24 年に、当院初期研修 OB である 2 人の救急科専門医が赴任するのにあわせて、救急外来を担当する「救急科」が独立し、入院を主に担当するのが「総合診療部」となりました。また総合診療部は全人的医療の観点から、臓器にとらわれることなく患者さまの訴えに基づく診療（problem oriented medicine)を推進致します。消化器内科は内科医として広く全人的医療ができるようになること、そのうえで subspecialty として消化器疾患を診ることができるようになることを専門研修の目標にしています。循環器内科は年間約 7,000 台の救急搬送の中には、急性冠症候群はもとより、心原性ショック等、重症を含む循環器疾患の患者が多く、インターベンションのみならず循環器全般診療を習得することが可能。さらには総合内科の経験スタッフが1名おり、循環器診療だけでなく感染症診療を含む内科一般診療も同時に習得することが可能なのは大きな特徴である。
救急科は入院管理、特に総合診療、集中治療領域について理解した救急外来での診療ができる事が特徴です。

5) 内科専門研修(専攻医)2 年目から 3 年目は基幹施設・連携施設・特別連携施設で研修を行います。
（院内と連携・特別連携施設から選択）

●旭川医科大学病院は、北海道ならびに道北、道東医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療を行える内科専門医を育成することを目的としています。内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の generality の獲得する場合や内科領域 subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して複数のコース別に研修を行います。

●勤医協中央病院は、救急医療と専門医療を柱とした急性期病院です。救急医療は年間約 7500 台の救急車の搬入があり、多彩な患者さんが来院されますが、それを受ける内科と外科は、各専門科が充実しており、豊富な症例を抱えています。がん診療についても化学療法、放射線治療、緩和医療等、必要な診療体制が充実しています。

●札幌徳洲会病院は、札幌市の南東部に位置する一般病床数 301 床の急性期病院です。
消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、循環器内科、総合診療科、IBD センター、プライマリセンターが内科専門研修を担い、内科専門医の育成・教育に力を入れています。

●市立千歳市民病院は，千歳や恵庭，安平，由仁などを含む地域の基幹病院として，急性期医療や小児・周産期医療，救急医療等の役割を担っています．北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います．

●帯広徳洲会病院は十勝地方に位置しており、特に音更町の重要な地域施設であります。
特徴として、アットホームな環境で、ゆったりと、ゆっくりと、のびのびと研修可能です。内科医 3 名、外科医 2 名、小児科医 1 名、歯科口腔外科医 1 名が在籍。肝臓専門医、整形外科医、循環器内科医、消化器専門医、腎臓内科医、麻酔科医が定期的に、臨時で診療に当たります。
外来初診診察・外来継続診察・入院病棟診療が可能で、初心者でも十分な時間を利用して、問診に重点を置き、身体診察、検査から初診の患者の診察、治療が可能であります。
帯広徳洲会病院で対応できない患者は 3 次病院がありスムーズに紹介、転院が可能である。
近くに道立の精神科病院もあり紹介できます。

①見逃してはいけない病気が診断できる。脳出血・脳梗塞・心筋梗塞・不安定狭心症・髄膜脳炎・腸閉塞・一酸化炭素中毒・癌。
②地域の保健衛生に関わり、予防接種(肺炎球菌ワクチン・インフルエンザワクチンなど)、禁煙外来を継続している。

●市立旭川病院は、北海道道北圏の医療の中核を担う自治体病院であります。
脳外科以外のほとんどの科を有する総合病院あり，とくに心血管系疾患，消化器系疾患に関する症例が多く，放射線インターベンション療法，血液透析，造血細胞移植，外来化学療法のほか，各専門科において先進的な医療を行っております。

●旭川厚生病院は、5 つの内科系診療科があり、消化器科、循環器科、呼吸器科、代謝内分泌、膠原病、血液を担当している。またワンフロアの緩和医療専門の病棟があり、その専門医との密接な連携を図ることもできます。

●旭川赤十字病院は、北海道上川中部医療圏の中心的な急性期病院であり、上川中部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

●名寄市立総合病院は北・北海道地域の中心的な急性期病院であり、急性期一般病棟 300 床、精神科病棟 55 床、感染症病床 4 床、の合計 359 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。旭川医科大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。

●遠軽厚生病院の内科では消化器疾患を中心に、悪性リンパ腫などの血液疾患、糖尿病、高脂血症などの代謝系疾患、その他、肺炎、尿路感染症など多岐にわたり診療をしております。近年は胃癌や大腸癌、膵癌、悪性リンパ腫などの疾患に対する化学療法も増えてきており、緩和治療を含め、最後まで診ることを大切に考えております。
循環器内科では 急性心筋梗塞・不安定狭心症・うっ血性心不全といった循環器急性疾患に対して、カテーテル治療などの急性期医療を行っております。また、狭心症・心臓弁膜症・心筋疾患・不整脈・大動脈疾患といった循環器疾患の診断・治療を行い、近隣の心臓血管外科とも連携して最適な医療を提供できるよう努めております。さらに生活習慣病である高血圧・糖尿病・脂質異常症に対しても積極的に介入しております。ほか、閉塞性動脈硬化症・腎動脈狭窄症・鎖骨下動脈狭窄症といった末梢血管の動脈硬化性疾患に対してもカテーテル治療を行っており、QOLや予後の改善に努めております。

●町立中標津病院は中標津町･羅臼町･標津町･別海町を含めた約 5 万人の医療圏の 2 次中核病院として機能しており、へき地医療拠点病院、災害拠点病院、地域周産期母子医療センターとしての指定も受けています。内科医療は年間約 1000 件の上下部内視鏡検査を行っている消化器内科を中心として、内科全般を広くカバーしています。また専門医療のみならず，主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。

●共愛会病院は、北海道最南端・函館市にあり、病院は、豊富な設備と医療体制を整備し、市内のみならず近郊市町村の地域医療・救急医療の中心的役割を担っている函館市の救急指定病院です。
また急性期だけではなく、糖尿病・高血圧症などの慢性疾患や透析管理、療養病棟での終末期医療の提供、包括ケア病棟や障害者病棟での診療も経験することができます。隣接する老健の患者対応や回診、地域住民に対する予防医療活動も積極的に行っており、充実した研修を行うことができます。

●名古屋徳洲会総合病院は、名古屋市東部に隣接する春日井市に、1986 年 6 月、徳洲会グループとしては 16 番目の中部地方初の徳洲会病院として開設された当院は、現在、救急医療および慢性疾患の治療に日夜取り組んでいます。徳洲会の理念である、『生命を安心して預けられる病院』『健康と生活を守る病院』の理念のもとに、年中無休・24 時間対応の救急医療を展開しています。

●利尻島国保中央病院は、利尻島（人口 4,400 人程度）唯一の病院です。島民の健康維持管理及び、救急時には断ることなく対応します。限られた医療資源の中、重症度や病態に関わらず患者を診ることができるため、幅広い知識と応用力が身につきます。また、地域の介護施設とも連携しており、高齢者の一時的な入院、リハビリ、退院支援、退院後の往診など一人の患者の健康維持の最初から最後まで経験することができます。そのため、島民一人一人の健康を守る全人的医療を経験してもらうことができます。
しかし、島内で医療が完結できるわけではありません。必要な症例はヘリ（ドクターヘリ、防災ヘリ）やフェリーなどで島外搬送することもあり、その患者搬送に必要な知識、技術も習得していただきます。

●夕張市立診療所は、南空知に位置し、全国唯一の財政再生団体である夕張市において入院機能を有する診療所です。また高齢化率５２％という特殊な地域性もあり、在宅医療にも力を入れ、外来や入院の他に介護サービスも併用しながら、「地域に根ざした医療と福祉の創造」を実現することを理念として、医療と福祉を提供しております。
子どもから高齢者まで、幅広い患者さんと向き合うことのできる診療所です。

●日高徳洲会病院は、静内地区のローカルな病院ではなく、広く日高振興局をカバーする意気込みで地域の医療・福祉の充実を目指しています。和歌山県に匹敵する面積に7万人足らずの人口しかいない、超過疎地域の日高振興局で確固とした病院運営をするため「健康と生活を守る病院」となれるように、日高徳洲会病院は「生命だけは平等だ」という理念の元「生命を安心して預けられる病院」を目指して前進して参ります。

また本プログラムは専攻医の希望を尊重し、自由選択の研修を Subspecialty 研修に重点を置いた研修をすることも可能であり、その場合は連携施設の受け入れ状況によっては１箇所の基幹・連携・特別連携施設での研修を最長 1 年とすることができる。

④専門研修後の成果【整備基準3】
内科専門医の使命は、
1）高い倫理観を持ち、2）最新の標準的医療を実践し、3）安全な医療を心がけ、4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することである。
内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、
1） 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
2） 内科系救急医療の専門医
3） 病院での総合内科（generality）の専門医
4） 総合内科的視点を持った subspecialist
に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得する。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにある。
札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムを養うために、general なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成する。そして、札幌市医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要する。また、希望者は subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する事も準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果である。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】
下記 1）～7）により，札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は

募集定員数 1学年 4名

1） 剖検体数：2022 年度 3 体 2023 年度 10 体(予定)

2022 年実績	新入院患者実数 （人/年）	外来延患者数 （延人数/年）
消化器内科	913	15,057
循環器内科	2,762	34,572
IBD センター	313	10,600
総合診療部	189	16,990
救急科	1,576	18,433

表. 札幌東徳洲会病院病 診療科別診療実績

2) 代謝，内分泌，血液，膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめだが，外来患者診療を含め、1 学年 3 名に対し十分な症例を経験可能である。
3) 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍している（P20 参照）。
4) 1 学年 3 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は十分に達成可能である。
5) 専攻医 2・3 年目に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能・専門病院 1 施設，および地域医療密着型病院 3 施設，計 4 施設あり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能である。
6) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験は達成可能である。

3. 専門知識・専門技能とは

① 専門知識【整備基準 4】[資料 1「内科研修カリキュラム項目表」参照]専門知識の範囲（分野）は「総合内科」「消化器」「循環器」「内分泌」「代謝」「腎臓」「呼吸器」「血液」「神経」「アレルギー」「膠原病および類縁 疾患」「感染症」ならびに「救急」で構成される。「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」「病態生理」「身体診察」「専門的検査」「治療」「疾患」などを目標（到達レベル）とする。
② 専門技能【整備基準 5】[資料 3「技術・技能評価手帳」参照]
内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指す。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わる。これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできない。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

① 到達目標【整備基準 8～10】（別表 1「札幌東徳洲会病院　疾患群 症例　病歴要約　到達目標」参照）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）（資料 2 参照）に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とする。
内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がある。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定する。

〇専門研修(専攻医)1 年:

症例

「研修手帳（疾患群項目表）」（別添・資料 2 参照）に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録する。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われる。

専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システ(J-OSLER)に登録する。

技能

研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、subspecialty 上級医とともに行うことができる。

態度

専攻医自身の自己評価と指導医，subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行う。

〇専門研修(専攻医)2 年:

症例

「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、120 症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録する。

専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を終了する。

技能

研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、subspecialty 上級医の監督下で行うことができる。

態度：専攻医自身の自己評価と指導医、subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行う。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックする。

〇専門研修(専攻医)3 年:

症例

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とする。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）を経験し、日本内科学 会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録する。

専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認する。

既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受ける。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂する。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意する。

技能

内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができる。

態度
専攻医自身の自己評価と指導医、subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行う。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックする。
また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図る。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とする。日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成する。

札幌東徳洲会病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長する。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に subspecialty 領域専門医取得に向けた知識・技術・技能研修を開始させる。

② 臨床現場での学習【整備基準 13】
内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得される。内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験する（下記 1）～5）参照）。この過程によって専門医に必要な知識・技術・技能を修得する。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載する。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足する。
これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにする。

1） 内科専攻医は、担当指導医もしくは subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研績する。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。
2） 定期的に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得る。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高める。
3） 内科外来（初診を含む）と subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週 1 回、1 年以上担当医として経験を積む。
4） 救急科の時間外外来(内科)または内科領域の救急診療の経験を積む。
5） 当直医として病棟急変などの経験を積む。
6） 必要に応じて、subspecialty 診療科検査を担当する。

③ 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1）内科領域の救急対応、2） エビデンスや病態理解・治療法の理解、3） 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4）医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5）専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、下の方法で研鑽する。

1） 定期的に開催する各診療科での抄読会
2） 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2022 年度実績 3 回）
　　※内科専攻医は年に 2 回以上受講する
3） CPC 施設(基幹施設 2022 年度実績 3 回)
4） 研修施設群合同カンファレンス （2023 年度：年 1 回開催予定）
5） 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：札幌東徳洲会病院救急医療 合同カンファレンス、札幌市内科医会循環器研究会、消化器病症例検討会；2022 年度実績 3 回）
6） JMECC 受講（基幹施設：2022 年度開催実績 1 回：受講者 5 名）
　　※内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講する
7） 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
8） 各種指導医講習会／JMECC 指導者講習会
など

④ 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例だが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、また は判定できる）、 C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した）、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セ ミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と 分類している。（別添 資料 1「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習する。
1） 内科系学会が行っているセミナーDVD やオンデマンドの配信
2） 日本内科学会雑誌にある MCQ
3） 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
など

⑤ 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録する。

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録する。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行う。
・専攻医による逆評価を入力して記録する。
・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行う。
・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録する。
・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録する。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】
札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（p23 参照）。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である札幌東徳洲会病院専攻医臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促す。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】
内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢である。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となる。
札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても、

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM; evidence based medicine）。
③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）。
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。
といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を養う。
併せて、
① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
② 後輩専攻医の指導を行う。
③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。 を通じて，内科専攻医としての教育活動を行う。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】
札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、下記の①～④を推奨する。

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加する（必須）.
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する。
② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行う。
④ 内科学に通じる基礎研究を行う。
を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにする。
内科専攻医は学会発表あるいは論文発表を筆頭者として 2 件以上行う。
なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨する。

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】
「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力である。これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能である。その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性である。

札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても指導医、subspecialty 上級医とともに下記1)～10)について積極的に研鑽する機会を与える。
プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である札幌東徳洲会病院専攻医臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促す。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得する。
1） 患者とのコミュニケーション能力
2） 患者中心の医療の実践
3） 患者から学ぶ姿勢
4） 自己省察の姿勢
5） 医の倫理への配慮
6） 医療安全への配慮
7） 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
8） 地域医療保健活動への参画
9） 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
10） 後輩医師への指導
※教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につける.

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】
内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須である。札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群研修施設は札幌市医療圏、近隣医療圏および全道各地域の医療機関から構成されている。
札幌東徳洲会病院は、札幌市医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につける。
連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である旭川医科大学病院、および地域医療密着型病院である帯広徳洲会病院　市立旭川病院　旭川厚生病院　旭川赤十字病院　名寄市立総合病院　遠軽厚生病院　町立中標津病院　ひまわりクリニックきょうごくで構成している。
高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につける。
地域基幹病院では，札幌東徳洲会病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修する。また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねる。
地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修する。
札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群(p20)は札幌市医療圏、近隣医療圏および全道各地域、愛知県の医療機関から構成している。
当院から距離が離れている名古屋徳洲会総合病院　旭川医科大学病院　市立千歳市民病院　帯広徳洲会病院　市立旭川病院　旭川厚生病院　旭川赤十字病院　名寄市立総合病院　遠軽厚生病院　町立中標津病院　共愛会病院　日高徳洲会病院　利尻島国保中央病院　夕張市立診療所は専攻医に宿舎を用意し環境整備に心がける。

特別連携施設である日高徳洲会病院、利尻島国保中央病院、夕張市立診療所での研修は，札幌東徳洲会病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導の責任を行う。札幌東徳洲会病院の担当指導医が、日高徳洲会病院、利尻島国保中央病院、夕張市立診療所の上級医とともに，専攻医の研修指導にあたり，指導の質を保つ。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】

札幌東徳洲会病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としている。
札幌東徳洲会病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。

11. 内科専攻医研修(モデル)【整備基準 16】

札幌東徳洲会病院の専門研修(専攻医)期間は 3 年間であり、基本コースが基幹施設 1 年(必修)＋連携施設 1 年(必修)＋基幹・連携・特別連携 1 年(選択必修)、サブスペシャリティコースは基幹施設 1 年(必修)＋連携施設 1 年(必修)＋基幹・連携・特別連携 1 年 (選択必修)である。専攻医 2 年目の 8 月に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる、360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、選択研修の研修施設を調整し決定する。なお、研修達成度によっては subspecialty 研修も可能である。（個々人により異なる）

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19－22】

（1） 札幌東徳洲会病院専攻医臨床研修センター
・札幌東徳洲会病院内科専門研修管理委員会の事務局で行う。
・札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認する。

・6 ヵ月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促す。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。

・6ヵ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促す、また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。

・6 ヵ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡する。

・年に複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行う。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を通じて集計され、1 ヵ月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促す。

・札幌東徳洲会病院臨床研修センターは、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修）を毎年複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に）行う。担当指導医、subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査、放射線技師、臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し評価する。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価する。評価は無記名方式で、札幌東徳洲会病院臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録する（他職種はシステム にアクセスしない）。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行う。

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応する。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医(メンター)が札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム委員会により決定される。

・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をする。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行う。

・専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにする。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにする。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了する。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価、承認する。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLE での専攻医に よる症例登録の評価や札幌東徳洲会病院臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握する。専攻医は subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談する。担当指導医と subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整する。

・担当指導医は subspecialty 上級医と協議し、知識, 技能の評価を行う。

・専攻医は、専門研修(専攻医)2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録する。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要がある。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修(専攻医)3 年次修了までにすべての病歴要約が受理(アクセプト)されるように改訂する。これによって病歴記載能力を形成的に深化させる。

(3) 評価の責任者
年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討する。その結果を年度ごとに札幌東徳洲会病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認する。

(4) 修了判定基準【整備基準 53】
1)担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて研修内容を評価し，以下i)～vi)の修了を確認する。
ｉ) 主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上(外来症例は 20 症例まで含むことができる)を経験することを目標とする。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録する。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる)を経験し、登録済み(別表 1「札幌東徳洲会病院疾患群　症例　病歴要約　到達目標」参照).
ⅱ) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理(アクセプト)
ⅲ) 所定の2編の学会発表または論文発表
ⅳ) JMECC 受講
ⅴ) プログラムで定める講習会受講
ⅵ) 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性。

2) 札幌東徳洲会病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 ヵ月前に札幌東徳洲会病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行う。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備
「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画(FD)の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いる。
なお「札幌東徳洲会病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】(P.53 資料 6)と「札幌東徳洲会病院内科専門研修指導医マニュアル」 【整備基準 45】(P.57 資料 7)と別に示す。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37 39】
(P.52 資料5)「札幌東徳洲会病院内科専門研修管理員会」参照)
① 札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
1) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。

内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)、事務局代表者、内科 subspecialty 分野の研修指導責任者(診療部長)および連携施設担当委員で構成される。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる(資料 5. 札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム管理委員会参照)。札幌東徳洲会病院内科専門研修管理委員会の事務局を、札幌東徳洲会病院専攻医臨床研修センターにおく。

② 札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置する。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 6 月と 12 月に開催する札幌東徳洲会病院内科専門研修管理委員会の委員として出席する。
基幹施設，連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、札幌東徳洲会病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行う。

1） 前年度の診療実績
a）病院病床数　b）内科病床数　c）内科診療科数　d）1 か月あたり内科外来患者数、
e）1 か月あたり内科入院患者数　f）剖検数

2） 専門研修指導医数および専攻医数
a）前年度の専攻医の指導実績　b）今年度の指導医数／総合内科専門医数
c）今年度の専攻医数　d)次年度の専攻医受け入れ可能人数

3） 前年度の学術活動
a）学会発表　b）論文発表

4） 施設状況
a）施設区分　b）指導可能領域　c）内科カンファレンス　d）他科との合同カンファレンス
e）抄読会　f）机　g）図書館　h）文献検索システム　i）医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，
j）JMECC の開催

5） subspecialty 領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数。

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】
指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用する。 厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨する。指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いる。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】
労働基準法や医療法を遵守することを原則とする。
専門研修（専攻医）基幹施設である札幌東徳洲会病院の就業環境に、専門研修（専攻医）連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき、就業する（札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群」(p.20)参照）

基幹施設である札幌東徳洲会病院の整備状況：
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・札幌東徳洲会病院常勤または非常勤医師として労務環境が保証されている。
・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。（MHCT　メンタルヘルスケアチーム）
・ハラスメント委員会が整備されている。
・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されている。
・当院には院外保育所があり、利用可能である。専門研修施設群の各研修施設の状況については「札幌東徳洲会病院内科専門施設群」を参照。
また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図る。

16．内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48 51】

① 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価
日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行う。逆評価は年に複数回行う。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行う。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧する。また集計結果に基づき、札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てる。

② 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス
専門研修施設の内科専門研修委員会、札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム
（J-OSLER） を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握する。把握した事項については札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討する。
1） 即時改善を要する事項
2） 年度内に改善を要する事項
3） 数年をかけて改善を要する事項
4） 内科領域全体で改善を要する事項
5） 特に改善を要しない事

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とする。

●担当指導医、施設の内科研修委員会、札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムを評価する。

●担当指導医、各施設の内科研修委員会、札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てる。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てる。

③ 研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応
札幌東徳洲会病院臨床研修センターと札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム管理委員会は、札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応する。その評価を基に、必要に応じて札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムの改良を行う。
札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告する。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】
日本専門医機構または日本内科学会の Web サイトをご確認ください。
不明な点は直接下記研修センターへお問い合わせ下さい。

(問い合わせ先)札幌東徳洲会病院臨床研修センター　011-722-1110
E-mail:ishi_kenshu@higashi-tokushukai.or.jp　(研修センター事務担当　松山智行)
HP:http://www.higashi-tokushukai.or.jp/

18. 内科専門研修の休止・中断, プログラム移動, プログラム外研修の条件【整備基準 33】
やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証する。これに基づき、札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認める。他の内科専門研修プログラムから札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様である。他の領域から札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)への登録を認める。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定による。疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしていれば、休職期間が6ヵ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとする。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要である。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算(1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とする)を行なうことによって、研修実績に加算する。留学期間は、原則として研修期間として認めない。

資料 4.札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群

表1.各研修施設の概要(令和 5 年 4月現在、剖検数:令和 4 年度)

施設状況	病院名	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科指 導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	札幌東徳洲会病院	336	152	6	7		3
連携施設	旭川医科大学病院	602	148	8 (9)	41	22	17
連携施設	市立旭川病院	478	155	6	12	8	10
連携施設	旭川厚生病院	539	173	5	24	13	10
連携施設	旭川赤十字病院	520	225	7	20	10	6
連携施設	名寄市立総合病院	359	78	5	8	1	3
連携施設	遠軽厚生病院	254	120	3 (2)	6	3	1
連携施設	町立中標津病院	199	199	2	1	1	0
連携施設	帯広徳洲会病院	152	110	3	1	1	0
連携施設	勤医協中央病院	450	260	9	18	19	12
連携施設	市立千歳市民病院	190	65	3	4	4	2
連携施設	札幌徳洲会病院	301	103	7	7	3	2
連携施設	共愛会病院	378	100	1	2	1	0
連携施設	名古屋徳洲会総合病院	350	175	6	9	7	4
連携施設	利尻島国保中央病院	42	20	2	1	0	0
特別連携施設	夕張市立診療所	19	19	3	1	0	0
特別連携施設	日高徳洲会病院	199	120	4	0	0	0

※旭川医科大学病院・遠軽厚生病院は内科指導医数(上段 標榜診療科数 下段 院内標榜診療科数)

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病　院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
札幌東徳洲会病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
旭川医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立旭川病院	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	△	○	○
旭川厚生病院	×	○	○	△	○	×	○	○	×	×	○	×	○
旭川赤十字病院	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
名寄市立総合病院	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
遠軽厚生病院	○	○	○	○	○	×	△	△	×	×	×	△	○
町立中標津病院	○	○	×	×	△	×	×	×	×	×	×	○	△
帯広徳洲会病院	○	○	△	△	×	△	○	△	△	×	×	○	○
勤医協中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立千歳市民病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
札幌徳洲会病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
共愛会病院	○	○	○	○	△	○	○	△	△	△	△	○	○
名古屋徳洲会総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
利尻島国保中央病院	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
夕張市立診療所	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○
日高徳洲会病院	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○

※各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○、△、×）に評価した。
〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】
内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須である。札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群研修施設は北海道内の医療機関から構成されている。
札幌東徳洲会病院は北海道札幌市医療圏の中心的な急性期病院である。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修する。
また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につける。
連携施設・特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である旭川医科大学病院、および地域医療密着型病院である勤医協中央病院　札幌徳洲会病院　市立千歳市民病院　帯広徳洲会病院　市立旭川病院　旭川厚生病院　旭川赤十字病院　名寄市立総合病院　遠軽厚生病院　町立中標津病院　共愛会病院　日高徳洲会病院　利尻島国保中央病院　夕張市立診療所　愛知県に位置する臨床研修基幹病院の名古屋徳洲会総合病院で構成している。
高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につける。地域基幹病院では札幌東徳洲会病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねる。
地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修する。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択
・専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定する。
・病歴提出を終える専攻医 3 年目の 1 年間、連携施設・特別連携施設で研修をする。なお、研修達成度によってはsubspecialty 研修も可能である（個々人により異なる ）

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】
札幌市医療圏と近隣医療圏にある施設から構成している。
距離が離れている、名古屋徳洲会総合病院　旭川医科大学病院　市立千歳市民病院　帯広徳洲会病院　市立旭川病院　旭川厚生病院　旭川赤十字病院　名寄市立総合病院　遠軽厚生病院　町立中標津病院　共愛会病院　日高徳洲会病院　利尻島国保中央病院　夕張市立診療所は専攻医に宿舎を用意していますので、研修に支障をきたす可能性は少ない。

1） 専門研修基幹施設
医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・JCI(Joint Commission International)の認定病院です。 ・JCEP(卒後臨床研修評価機構)の認定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・札幌東徳洲会病院 常勤または非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修 プログラムの環境	・指導医は8名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（循環器内科副院長），プログラム管理者（消化器内科副院長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備委員会）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（札幌東徳洲会病院と救急隊の救急医療合同カンファレンス、札幌東徳洲会病院主催の CPC 検討会、札幌東徳洲会病院 GIM カンファレンス）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設(帯広徳洲会病院、ひまわりクリニックきょうごく)の専門研修では，電話や週 1 回の札幌東徳洲会病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を致します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3）診療経験 の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検(2019 年度実績 9 体、2018 年度実績 10 体)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動 の環境	・当院は臨床研究センターを有しており、臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています。 ・医の倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に医学系研究倫理審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会で学会発表をしています。
指導責任者	山崎誠治(副院長 循環器内科) 【内科専攻医へのメッセージ】 札幌東徳洲会病院は，北海道札幌市医療圏の中心的な急性期病院であり，連携施設の旭川医科大学病院 市立旭川病院 旭川厚生病院 旭川赤十字病院 名寄市立総合病院 遠軽厚生病院 町立中標津病院 帯広徳洲会病院 ひまわりクリニックきょうごくで構成している。特別連携施設のひまわりクリニックきょうごくからなる施設群で内科専門研修を行い、救急医療から高度先進医療または地域医療にも十分貢献できる研修プログラムを作成し、専攻医の

	先生には内科専門医を目指して頂きます。 また当院は診療科間の垣根が低く、先生同士のコミュニケーションが取りやすい環境や、基幹病院の環境を活かして、密度の濃い充実した内科専門医研修を提供しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医9名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医8名、日本消化器内視鏡学会専門医8名、日本循環器学会循環器専門医5名、日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医4名、日本心血管インターベンション治療学会認定医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医1名、、日本神経学会神経内科専門医1名、日本アレルギー学会専門医（内科）3名、日本救急医学会救急科専門医5名、ほか

外来・入院 患者数	入院患者実数 9,514 名／年(内科系 4,668 名) 新外来患者数 26,842 名／年(内科系 7,615 名)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 一般社団法人日本禁煙学会認定教育施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設（関連） 日本大腸肛門病学会認定施設 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設 日本肝臓学会認定施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本血液学会血液研修施設 公益社団法人日本リハビリテーション医学会研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ 稼動認定施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム(ver.2.0) 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本認知症学会教育施設

2)専門研修連携施設
旭川医科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修 プログラムの環境	･指導医が 47 名在籍しています（下記）。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療倫理 4 回、医療安全 21 回、感染対策 20 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスも今後定期的に開催することを予定し、専攻医に参加するための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 10 演題）をしています。
指導責任者	佐藤伸之 【内科専攻医へのメッセージ】 旭川医大病院には 5 つの内科系診療科があり、そのうち 3 つの診療科が複数領域（消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、血液、神経、膠原病）を担当しています。また、救急疾患に関しては各診療科や救急部によって管理され、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 47 名、日本内科学会総合内科専門医 35 名 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 12 名、日本内分泌学会専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 6 名、 日本腎臓病学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本リウマチ学会専門医 3 名、日本感染症学会専門医 0 名、 日本老年医学会指導医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 31,438 名（1 ヶ月平均） 入院患者 1,140 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例

	を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内科学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本透析医学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本動脈硬化学会教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器がん検診学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床細胞認定施設 日本感染症学会連携研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本航空医療学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本臨床検査医学会認定病院 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本輸血・細胞治療学会・日本臨床検査医学会・日本臨床衛生検査技師会・日本臨床検査同学院認定輸血検査技師制度指定施設 日本外科学会・日本血液学会・日本産科婦人科学会・日本麻酔科学会・日本輸血・細胞治療学会認定・輸血看護師制度指定研修施設 日本人類遺伝学会臨床細胞遺伝学認定士制度研修施設　など

2)専門研修連携施設
勤医協中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院である。 ・施設内に研修に必要な図書やインターネットの環境が整備されている。 ・ 適切な労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署が整備されている。 ・ ハラスメント委員会が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。 ・ 敷地内外を問わず保育施設等が利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 1 名以上在籍している。 ・ 研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ることができる。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催している。開催している場合には、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・ CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・JMECC を毎年開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	中野　亮司
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 人、日本内科学会総合内科専門医 19 人、 日本消化器病学会専門医 7 人、日本循環器学会専門医 7 人、 日本呼吸器学会専門医 6 人、日本腎臓病学会専門医 3 人、 日本糖尿病学会専門医 3 人、日本内分泌学会専門医 3 人、 日本リウマチ学会専門医（内科）3 人、日本血液学会専門医 2 人、 日本アレルギー学会専門医（内科）1 人、日本透析医学会専門医 2 人、 日本脳卒中学会専門医 1 人、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医 1 人ほか
外来・入院患者数	総入院患者数；11,082 人　　総外来患者数；133,235 人
経験できる疾患群	総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急
経験できる技術・技能	診断、医療面接、身体診察、専門的検査（手技を伴うもの、判断能力が問われるもの）、治療（薬物治療，応急処置等）とその方針の決定、他の専門医へのコンサルテーション、患者および家族への説明など
経験できる地域医療・診療連携	がん診療連携、地域パス協議会、在宅介護ネットワーク、へき地診療研修、災害医療連携など
学会認定施設 （内科系）	消化器学会、消化器内視鏡学会、循環器学会、内分泌学会、糖尿病学会、腎臓学会、透析学会、呼吸器学会、呼吸器内視鏡学会、リウマチ学会、血液学会、救急学会など

2)専門研修連携施設
札幌徳洲会病院

認定基準 1)専 攻 医 の 環境	ー厚生労働省認定基幹型幹型研修指定病院です.【認定番号:030011】 ー研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ー札幌徳洲会病院の常勤医師として労務環境が保障されています. ーメンタルストレスに適切に対処する部署として, ハラスメント委員会が札幌徳洲会病院に整備されています. ー女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ー 敷地内に院内保育所【つぼみ保育園】があり, 24 時間利用可能です.
認定基準 2)専 門 研 修 プログラムの環境	ー指導医は 7 名在籍しています(下記). ー内科専攻医研修委員会を設置して施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ー医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. (2020 年度実績 8 回ならびに、オンラインや e-learning 受講対応) ー研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ーCPC を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. (2020 年度実績 4 回…共催を含む) ー地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. (2020 年度実績 2 回)
認定基準 3)診 療 経 験 の 環境	ーカリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 10 分野以上)で定常的に専門研修可能な症例数を診療しています. ー70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 56 以上の疾患群)について研修できます. ー専門研修に必要な剖検を行っています. (2020 年度実績 2 体, 2019 年度 12 体)
認定基準 4)学 術 活 動 の 環境	ー臨床研究に必要な図書室, 写真室などを整備しています. ー日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています. (2020 年度実績 2 演題)
指導責任者	折居史佳(IBD センター部長) 【内科専攻医へのメッセージ】 徳洲会グループの病院としては, 昭和 58 年 5 月に開設された全国で 10 番目, 北海道では最初の病院です. 当院をハブ空港として, 様々な病院に研修で出ることができます. 本州や海外の病院への見学・研修機会もあります. 自分の担う診療が北海道, 日本, そして地球の上でどんな意味を持つのか. それを感じ, たくさんの出会いに恵まれてください. また, 患者さんの診療は入院から退院までを継続的に担当できるようにしています. 時に, 患者さんと一緒に年を重ね, 年単位で自分の判断や決断を省察し, 話し合い, グローバルスタンダードと経験の間でバランス感覚を養ってゆく・・・そんな仲間を募集中です !

2)専門研修連携施設
市立千歳市民病院

認定基準 1)専攻医の環境	･基幹型臨床研修病院として指定を受けています. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･千歳市常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務部職員課）があります. ･ハラスメント委員会が千歳市役所に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 4 名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020 年度実績　医療倫理　1 回，医療安全 3 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的配慮を行います. ･研修施設群合同カンファレンス（2021 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的配慮を行います. ･CPC を定期的に開催（2020 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的配慮を行います. ･感染症専門医によるレクチャーを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的配慮を行います.
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	循環器科　診療科長　池田大輔 【内科専攻医へのメッセージ】 　市立千歳市民病院は，千歳や恵庭，安平，由仁などを含む地域の基幹病院として，急性期医療や小児・周産期医療，救急医療等の役割を担っています．北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　4 名，日本内科学会総合内科専門医　4 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本循環器学会循環器専門医 2 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，
外来・入院患者数	外来患者　10,648 名（1 ヶ月平均） 入院患者　3,248 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域，61 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経

療・診療連携	験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 など

2)専門研修連携施設
帯広徳洲会病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 帯広徳洲会病院常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。 ハラスメント委員会が院内に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 病院内に院育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修 プログラムの環境	指導医が 1 名在籍しています(下記)。 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催【2014 年度実績　医療安全 2 回，感染対策 2 回】し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 CPC は基幹病院である札幌東徳洲会病院での開催時に専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス(2014 年度実績　在宅歯科医療連携　2 回)を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，腎臓，呼吸器，感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2014 年度実績 0 演題)を予定しています。
指導責任者	中藤正樹 【内科専攻医へのメッセージ】 YYNゆったり、ゆっくり、のびのびと総合内科医になる 帯広徳洲会病院は、北海道の十勝地方に位置し、降水量も少なく、過ごしやすく、食材も豊富で美味しいです。急性期病床 60 床、地域包括病床 13 床、障害者病床 47 床を持ち地域の一次医療、予防医療を担っています。札幌東徳洲会病院を基幹病院とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行います。 外来初診診察・外来継続診察・入院病棟診療が可能です。初心者でも十分な時間を利用して、問診に重点を置き、身体診察、検査から初診の患者の診察、治療が可能です。 よくある病気の診断、治療し、入院検査、外来フォローができる。 当院で対応できない患者は 3 次病院がありスムーズに紹介、転院が可能です。 近くに道立の精神科病院もあり紹介できます。 見逃してはいけない病気が診断できる。脳出血・脳梗塞・心筋梗塞・不安定狭心症・髄膜脳炎・腸閉塞・一酸化炭素中毒・癌。 当院は地域の保健衛生に関わり、予防接種(肺炎球菌ワクチン・インフルエンザワクチンなど)、禁煙外来を継続している。

	当院の特徴：アットホームな環境で、ゆったりと、ゆっくりと、のびのびと研修可能です。内科医 3 名、外科医 2 名、小児科医 1 名、歯科口腔外科医 1 名が在籍。肝臓専門医、整形外科医、循環器内科医、消化器専門医、腎臓内科医、麻酔科医が定期的に、臨時で診療に当たります。
指導医数（常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 1 名，日本消化器病学会消化器専門医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 4,440 名（1 ヶ月平均） 入院患者 92 名（1 日平均）
病床	152 床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 9 領域，57 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	なし

2)専門研修連携施設
市立旭川病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・旭川市の会計年度任用職員（専攻医）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員相談室）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています・ ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修 プログラムの環境	・指導医は 12 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績 21 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（腸を診る会，旭川消化器病談話会，大雪消化器病研究会，血液症例検討会，コメディカル血液勉強会ほかを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修課が対応します。 ・特別連携施設の専門研修では，市立旭川病院の指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，呼吸器，血液，アレルギー，感染症，救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち腎臓，神経，膠原病を除く 52 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 9 体，2019 年度実績 14 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，非定期に開催（2018 年度実績 3 回，2019 年度実績 4 回）しています。 ・治験事務局を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2018 年度実績 9 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 6 演題）をしています。
指導責任者	・斉藤　裕輔 【内科専攻医へのメッセージ】

	市立旭川病院は北海道道北圏の医療の中核を担う自治体病院であります。 脳外科以外のほとんどの科を有する総合病院あり，とくに心血管系疾患，消化器系疾患に関する症例が多く，放射線インターベンション療法，血液透析，造血細胞移植，外来化学療法のほか，各専門科において先進的な医療を行っております。 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、日本神経学会専門医1名、日本認知症学会専門医1名
外来・入院患者数	外来患者 19,778 名（1 ヶ月平均）入院患者 10,129 名（1 ヶ月平均）2018 実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技能・技術評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院，日本消化器病学会教育関連施設，日本循環器学会認定循環器専門医研修施設，日本呼吸器学会認定施設，日本血液学会認定血液研修施設，日本アレルギー学会認定教育施設，日本消化器内視鏡学会指導施設，日本がん治療認定医機構認定研修施設，日本高血圧学会専門医認定施設，日本糖尿病学会認定教育施設，日本動脈硬化学会専門医制度教育病院，日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設など

2)専門研修連携施設
JA北海道厚生連旭川厚生病院

連携領域	内科、小児科、外科、産婦人科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、麻酔科、病理診断科
病院情報	住　所　〒078-8211　　旭川市1条通 24 丁目 111-3 連絡先　0166-33-7171（代表） 事務担当者　小山内・青木 E-mail:rinsho_kenshu@ja-hokkaidoukouseiren.or.jp 病床数　539 床 理　念　私達は、「最も信頼され選ばれる」病院を目指します。患者さまの権利を尊重し、いつでも安心して受けられる医療の提供に努めます。地域住民の健康を守り、農村・地域社会の発展に寄与致します。
域別研修紹介	領域名　内科常勤 医　数　26 名　　専門 医　数　20 名　　総合内科 専門医　7 名
研修責任者	副院長　加藤　淳一 血液・腫瘍内科　主任部長　佐藤　一也 代謝・内分泌内科　主任部長　三浦　貴徳 呼吸器科　診療部長　秋葉　裕二 消化器科　内視鏡センター長　柳川　伸幸 循環器科　診療部長　小川　裕二
≪研修の特色、ストロングポイント≫	旭川厚生病院は 5 つの内科系診療科があり、消化器科、循環器科、呼吸器科、代謝内分泌、膠原病、血液を担当している。またワンフロアの緩和医療専門の病棟があり、その専門医との密接な連携を図ることもできる。 1．血液・腫瘍内科 主に白血病、悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍を中心に診断、治療を行っている。化学療法分子標的治療を中心に、PET 検査をはじめとした画像診断が充実しているのが当院の魅力である。地域がん診療連携拠点病院にも指定されており、病棟には専任の薬剤師も在籍、無菌室も 3 室ある。また、外来化学療法も積極的に行っている。 当院は血液学会研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床腫瘍学会研修施設にも認定されており、当科の研修で内科専門医のほか血液専門医、がん治療認定医、がん薬物療法専門医の取得が可能である。 2．代謝・内分泌内科 対象疾患は主に糖尿病を中心とした代謝疾患、甲状腺疾患を中心とした内分泌疾患、膠原病である。病床数は 15 床であり、約 2,500 人程度の外来患者を管理している。 糖尿病をはじめとする生活習慣病は増加の一途であり、患者数は年々増加しているが、当院では様々なコメディカルと密接に協力しながらきめ細かい診療を行っている。また甲状腺疾患、膠原病に関しては道北圏における数少ない診療施設として多数の患者が紹介されている。当院は日本糖尿病学会認定教育施設で

	もあり、糖尿病をはじめ内分泌疾患、膠原病の診療など幅広い研修が可能である。 ３．呼吸器科 指導医、専門医による 4 名の常勤医師が呼吸器疾患全般の診療を担っている。入院における主な診療対象は肺がんが多く（年間新入院がん患者数 3,538 名のうち肺がん 499 名）、次いで呼吸器感染症、COPD、喘息、間質性肺炎、急性呼吸不全の人工呼吸管理の診療に当たっている。呼吸器内科領域の機能・画像・内視鏡診断から血管造影にわたる広域に対応しており、外来における在宅酸素療法、抗癌化学療法も多く手掛けている。また、呼吸器外科、放射線科、病理、訪問看護ステーション等の関連部門と密接な連携のもと診療に臨んでいる。 ４．消化器科 常勤医師 9 名が①消化管②胆膵③肝の 3 つのグループ体制で診療を分担している。研究会の主催・共催を通じた地域医療機関との交流、高度の内視鏡診断・治療技術の導入、積極的な学会活動などに取り組むことにより、道北地域の消化器診療の拠点を目指すことを基本活動方針としている。 診療対象は消化器疾患全般に及んでおり、胃癌、大腸癌（年間新入院がん患者数 3,538 名のうち胃癌 343 名、大腸癌 385 名）をはじめとする消化器悪性腫瘍の症例数は道内有数となっている。ほとんど全ての手技に対応しており、特に消化管 X 線診断、内視鏡的粘膜下層切開剥離術、胆道内視鏡診断・治療、肝癌に対する内科的治療、炎症性腸疾患に対する内科的治療には積極的に取り組んでいる。また、外科・放射線科・病理などの関連各科との密接な協力関係のもとで診療にあたることも特徴としている。 ５．循環器科 診療対象は、循環器疾患全般に及んでおり、虚血性心疾患、心筋症、弁膜症、不整脈疾患を中心に心血管インターベーション（PCI）H29 年実績 292 件、末梢血管インターベーション 29 件、永久ペースメーカー植え込み術を 50 件施行している。併せて日本循環器専門医研修施設、日本心血管インターベーション学会研修関連施設、日本高血圧学会専門医認定施設の認定がなされており、豊富な症例と多くの専門医の下で循環器専門医の研修が可能である。 ≪認定施設≫ 日本内科学会認定医制度教育病院　日本糖尿病学会認定教育施設　日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設　日本消化器病学会専門医制度認定指導施設　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設　日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設　日本大腸肛門病学会専門医修練施設　日本呼吸器学会認定医制度認定施設　日本消化器がん検診学会認定指導施設　日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設　日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本感染症学会専門医制度認定研修施設　日本高血圧学会専門医認定施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設　日本臨床細胞学会認定病院　日本臨床細胞学会教育研修認定施設　日本血液学会認定血液研修施設　日本緩和医療学会認定研修施設　日本人間ドック学会人間ドック健診施設　日本糖尿病学会認定教育施設　等

2)専門研修連携施設
旭川赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・旭川赤十字病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が旭川赤十字病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修 プログラムの環境	・指導医は 20 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地域の医療機関と連携して診療を行った症例の検討会：年 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験 の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（6 体程度）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動 の環境	・臨床研究に必要な図書室、自習室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	藤井　常志 【内科専攻医へのメッセージ】 旭川赤十字病院は、北海道上川中部医療圏の中心的な急性期病院であり、上川中部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科

	専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医10名、日本内科学会総合内科専門医10名,日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名，日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本透析医学会透析専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医（内科）0 名、日本リウマチ学会専門医 0 名、日本感染症学会専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか
外来・ 入院患者数	外来患者 9,157 名（1 ヶ月平均） 入院患者 213 名（1日平均） 2018 年度実績（内科系）
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本神経学会教育関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 等

2)専門研修連携施設
名寄市立総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型、協力型(旭川医科大学病院、北海道大学病院)研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・名寄市常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、病院近傍に院内保育所も整備されております。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修 プログラムの環境	・指導医が 7 名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2014 年度実績 医療倫理 2 回、医療安全 1 回、感染対策 1 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2014 年度実績 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症及び救急分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2014 年度実績 8 演題)を予定しています。
指導責任者	酒井　博司 【内科専攻医へのメッセージ】名寄市立総合病院は北・北海道地域の中心的な急性期病院であり、急性期一般病棟 300 床、精神科病棟 55 床、感染症病床 4 床、の合計 359 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。旭川医科大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 18,669 名(1 ヶ月平均) 入院患者 262.1 名(1 ヶ月平均述数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本呼吸器学会関連施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、など

2)専門研修連携施設

遠軽厚生病院

連携領域　内科・外科・麻酔科・小児科・整形外科・眼科・泌尿器科・総合診療科・病理

病院情報	
住　所	〒099-0404 紋別郡遠軽町大通北3丁目1-5
連絡先	0158-42-4101（代表）
病床数	337床
理　念	私たちは、このオホーツクの地に生きる人々の健康を守り、『皆さまから最も信頼され、選ばれる病院』をめざします。

領域別研修紹介

【領域名　内科】指導医数7名　専門医数8名

研修責任者(氏名、略歴、資格など)
塩越隆広(副院長(兼)心臓血管カテーテル治療センター長)
旭川医科大学医学部(1988 年卒)
・日本内科学会認定内科医
・日本循環器病学会専門医
・日本心血管インターベンション治療学会専門医

研修紹介欄

内科では消化器疾患を中心に、悪性リンパ腫などの血液疾患、糖尿病、高脂血症などの代謝系疾患、その他、肺炎、尿路感染症など多岐にわたり診療をしております。近年は胃癌や大腸癌、膵癌、悪性リンパ腫などの疾患に対する化学療法も増えてきており、緩和治療を含め、最後まで診ることを大切に考えております。
循環器内科では急性心筋梗塞・不安定狭心症・うっ血性心不全といった循環器急性疾患に対して、カテーテル治療などの急性期医療を行っております。また、狭心症・心臓弁膜症・心筋疾患・不整脈・大動脈疾患といった循環器疾患の診断・治療を行い、近隣の心臓血管外科とも連携して最適な医療を提供できるよう努めております。さらに生活習慣病である高血圧・糖尿病・脂質異常症に対しても積極的に介入しております。
ほか、閉塞性動脈硬化症・腎動脈狭窄症・鎖骨下動脈狭窄症といった末梢血管の動脈硬化性疾患に対してもカテーテル治療を行っており、QOLや予後の改善に努めております。
[学会認定施設]日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、日本消化器病学会専門医認定施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本内科学会教育関連病院、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設]

【領域名　外科】指導医数2名　専門医数2名

研修責任者(氏名、略歴、資格など)
研修責任者　稲葉　聡（外科、副院長） 旭川医科大学医学部（1985年卒、第7期） 日本外科学会　専門医・指導医　日本消化器外科学会　専門医・指導医　日本がん治療認定機構　認定医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医　臨床研修プログラム責任者養成講習会受講
研修紹介欄
当科は医師6名（いずれも旭川医大卒業）で日々の診療に当たっています。年間300件程度の手術を施行しています。当科は一般外科として、広い範囲の疾患に対応しています。消化器の手術以外にも、乳腺、 甲状腺、肺、下肢静脈瘤、鼠径ヘルニアなどの手術も行っています。現在も3年目医師が2名在籍しており、 外科専門医を目指して研鑽を積んでいます。また地域センター病院として年間約1000台の救急車を受け 入れており、様々な外傷にも対応しており、専門医を目指す若手外科医に適した病院ではないかと思っております。 ［学会認定施設］日本外科学会専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設

【領域名　麻酔科】指導医数1名　専門医数2名

研修責任者(氏名、略歴、資格など)
研修責任者　松本　英樹（救急センター長　兼　麻酔科・手術室主任部長） 旭川医科大学医学部（1992年卒）　日本麻酔科学会　指導医
研修紹介欄
地域センター病院の一つとして地域医療、高度専門医療、救急医療を積極的に行っています。臨床業務に加え、地域の消防・自衛隊等と連携した蘇生・外傷・災害などのトレーニングコースを開催、運営しています。 ［学会認定施設］日本麻酔科学会麻酔科認定病院

【領域名 小児科】 指導医数０名 専門医数2名

研修責任者(氏名、略歴、資格など)
髙瀬 雅史（診療部長） 旭川医科大学医学部(1988 年卒) 認定資格等 ・日本小児科学会専門医
研修紹介欄
遠軽厚生病院小児科は、小児科の特性として急性疾患はもちろんですが、小児期から成人期まで継続的診療 が必要な慢性疾患も積極的に扱っています。また新生児医療に関しても、きわめてハイリスクな場合を除き受け入れを行っています。 チーム医療が重要であるという観点から、コメディカルとの連携にも重きを置きつつ、良質な医療を提供する事を基本姿勢としています。 少子化が進む中、小児科医の担うべき役割は治療に限定されず、予防を含めた子供の成長への関わりです。 子供たちの未来を明るく照らす役割としての小児医療を共に担っていくべく、プログラム参加をお待ちして います。 ［学会認定施設］日本小児科学会 小児科専門医研修施設

【領域名 整形外科】 指導医数０名 専門医数1名

研修責任者(氏名、略歴、資格など)
研修責任者 三宅 康晴（リハビリセンター長 兼 整形外科主任部長） 旭川医科大学医学部（１９８９年卒） 日本整形外科学会 専門医 日本整形外科学会 認定リウマチ医 日本整形外科学会 認定スポーツ医 日本整形外科学会 認定運動器リハビリテーション医
研修紹介欄
当科は常勤医師１名にて専門性を活かした診療を行っております。 充実したリハビリスタッフとは、カンファレンスなどを通じて綿密に連携し、診療にあたっております。 ［学会認定施設］日本整形外科学会認定医制度研修施設

【領域名 眼科】指導医数0名 専門医数1名

研修責任者(氏名、略歴、資格など)
室野 真孝(眼科) 旭川医科大学医学部(2016 年卒)
研修紹介欄
当科では一般的な疾患の外来診療他、高度な緑内障に対する治療、旭川医科大学と連携した専門的な診療 を行っています。また手術は主に白内障を行っておりますが、翼状片や緑内障手術なども対応しております。 [学会認定施設]日本眼科学会 専門医制度研修施設

【領域名 泌尿器科】 指導医数1名 専門医数1名

研修責任者(氏名、略歴、資格など)
奥山 光彦(診療部長 兼 泌尿器科主任部長) 旭川医科大学医学部(1990年卒) 日本泌尿器科学会 専門医・指導医 日本尿路結石症学会 評議員
研修紹介欄(研修の特色、施設のストロングポイント、学会認定施設など)
一般的な泌尿器科症例の診療が可能。 特に尿路結石症における内視鏡手術(TUL:経尿道的尿管結石破砕術)に力を入れて治療を行っています。 [学会認定施設]日本泌尿器科学会拠点教育施設

【領域名 総合診療科】　　指導医数 1 名 専門医数 1名

研修責任者(氏名、略歴、資格など)
橋本　道紀（総合診療科主任部長） 旭川医科大学医学部(1987 年卒) ・日本外科学会専門医 ・日本消化器外科学会認定医 ・日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定指導医 ・日本医師会認定産業医
研修紹介欄（研修の特色、施設のストロングポイント、学会認定施設など） 地域の中核病院として幅広く患者さんを受け入れています。消化器疾患を中心としていますが循環器科と 協力しながら内科全般を担当しています。スタッフには総合内科専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓病専門医、血液専門医がいます。地元での治療を希望される患者さんのため慢性期の脳疾患、癌の終 末期の患者さんを積極的に受け入れています。

2)専門研修連携施設
町立中標津病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･中標津町嘱託非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課総務担当）があります。 ･ハラスメントの防止等に関する規定が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています. （院内に温泉施設があり、利用可能です。火曜日・木曜日・土曜日の18：00～20：00） ･院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修 プログラムの環境	･指導医が 1 名在籍しています（下記）。 ･安全管理研修会を開催（2014 年度実績　4回）
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験 の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器内科、総合内科、循環器科、感染、代謝、アレルギーの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動 の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）をしています。
指導責任者	久保光司 【内科専攻医へのメッセージ】 町立中標津病院は中標津町･羅臼町･標津町･別海町を含めた約 5 万人の医療圏の 2 次中核病院として機能しており、へき地医療拠点病院、災害拠点病院、地域周産期母子医療センターとしての指定も受けています。内科医療は年間約 1000 件の上下部内視鏡検査を行っている消化器内科を中心として、内科全般を広くカバーしています。また専門医療のみならず，主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　1 名，日本アレルギー学会専門医（内科）1 名， 日本消化器内視鏡学会認定指導医 1 名
外来・入院患者数	外来患者　3,145 名（1 ヶ月平均）　入院患者 743 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 9 領域，39 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．特に消化器内科領域においては，より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した慢性期医療や，地域に根ざした医療，病診・病院連携などを経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器内視鏡学会認定指導施設

2)専門研修連携施設
名古屋徳洲会総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･名古屋徳洲会総合常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります. ･ハラスメント委員会が院内に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり, 利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 9 名在籍しています(下記). ･内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長), プログラム管理者(循環器内科部長)(いずれも総合内科専門医または指導医))と研修委員会にて, 基幹施設, 連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2020 年度実績 12 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2020 年度 2 回開催)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催(2020 年度実績 7 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス(関西地区徳洲会グループ病院症例検討会、医師会主催の内科系講演会、名古屋徳洲会総合病院主催救急合同カンファレンス、中津川循環器懇話会;2020 年度実績約 30 回)を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2019 年度開催実績あり)を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター(仮称)が対応します. ･特別連携施設(奄美徳洲会病院)の専門研修では, 現地の内科指導医有資格者の指導、名古屋徳洲会総合病院 内科指導医による電話や週 1 回程度のテレビ電話会議システム(開催実績あり)を用いた面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記). ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できます(上記). ･専門研修に必要な剖検(2020 年度実績 7 体, 2019 度 14 体)を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室, 写真室などを整備しています. ･院内には医の倫理委員会を設置し症例発表などの審査, 臨床研究等は徳洲会グループの共同倫理委員会で審査しています。(2020 年度実績 12 回) ･治験センターを設置し, 定期的に治験連絡会議を開催(2020 年度実績 12 回)しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で学会発表(2020 年度実績 4 演題)をしています.
指導責任者	亀谷良介 【内科専攻医へのメッセージ】 名古屋徳洲会総合病院は, 愛知県尾張北部医療圏の中心的な急性期病院であり, 岐阜県東濃・西濃医療圏にある連携施設・僻地離島地区である奄美医療圏にある特別連携施設とで内科専門研修を行い, 必要に応じた可塑性のある, 地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. また、稀少症例経験のため都市型病院、大学病院を連携施設としています。 主担当医として, 入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に, 診断・治療の流れを通じて, 社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.

2)専門研修連携施設
共愛会病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度協力型研修指定病院です ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります ･非常勤医師として労務環境および福利厚生が保障されています ･メンタルストレスに適切に対処する部署（ハラスメント防止委員会）があります ･女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室・当直室が整備されています ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が2名在籍しています（下記） ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績　医療倫理 2 回，医療安全 4 回，感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ･CPC を定期的に開催（2017 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野で専門研修が可能な症例数を診療しています
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています（2019 年度実績1演題）
指導責任者	水島　豊 【内科専攻医へのメッセージ】 共愛会病院がある函館市は、地理的条件から寒暖差が少なく一年中快適に過ごすことができます。 当院での研修は、幅広い年齢層の初診・救急から慢性期管理・緩和ケアまで経験することができ、また行いたい手技は積極的にチャレンジできる環境のため、充実した研修を送ることができます。
指導医数 （常勤医）	２名 日本内科学会専門医2名，総合内科専門医1名、 日本救急医学会救急指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医1名、 日本呼吸器学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医1名、日本老年医学会専門医 1 名、日本アレルギー学会指導医1名
外来・入院患者数	外来患者 7,287 名（1 ヶ月平均延数）　入院患者 279 名（1 ヶ月平均実数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	なし

3)専門研修特別連携施設
利尻島国保中央病院

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修における地域医療研修施設です. ･研修に必要な個人の机，インターネット環境（全館 Wi-Fi），図書室，宿舎があります. ･本院非常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医）があります. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，病院敷地内の宿舎を当直室として利用できます.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･基幹施設で行う CPC，もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講の機会を与えます. ･院内で定期的に開催されるセミナーの受講を義務付け，その時間的余裕を与えます.
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科及び救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています．離島ということもあり，限られた医療資源の中で応用力・適用力を生かした医療を行う経験を提供します. また，島外への医療搬送（防災ヘリ，フェリーなど）の症例数もあり，経験できます．もちろん，通院できない方のための訪問診療にも力を入れています.
認定基準 4)学術活動の環境	研修指導医が救急科専門医のため，症例に恵まれれば，日本救急医学会，日本臨床救急医学会での発表の機会があります．また，内科学会地方会での発表も予定しています.
指導責任者	淺井　悌 【内科専攻医へのメッセージ】 本院は，利尻島（人口 4,400 人程度）唯一の病院です．島民の健康維持管理及び，救急時には断ることなく対応します．限られた医療資源の中，重症度や病態に関わらず患者を診ることができるため，幅広い知識と応用力が身につきます．また，地域の介護施設とも連携しており，高齢者の一時的な入院，リハビリ，退院支援，退院後の往診など一人の患者の健康維持の最初から最後まで経験することができます．そのため，島民一人一人の健康を守る全人的医療を経験してもらうことができます. しかし，島内で医療が完結できるわけではありません．必要な症例はヘリ（ドクターヘリ，防災ヘリ）やフェリーなどで島外搬送することもあり，その患者搬送に必要な知識，技術も習得していただきます.
指導医数 （常勤医）	日本救急医学会救急科専門医　1名
外来・入院患者数	外来患者 77 名 入院患者 15 名（令和元年度　1 日平均）
病床	42 床〈急性期　一般病棟〉
経験できる疾患群	・内科領域全般（老年内科と総合内科） ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療，全身管理，今後の治療方針の考え方等について学ぶことが出来ます. ・小児救急疾患（感染症，下痢症など）

経験できる技術・技能	・内科専門医に必要な技術・技能を島内唯一の本院にて経験していただきます．内科のみならず，様々な疾患，病態に対するファーストストレスポンダーとして，総合内科的発想と技術の取得を目指します． ・島民の検診事業として，上部消化管内視鏡・下部消化管内視鏡を実施しております．消化器内科医の指導のもと，内視鏡の研修も可能です． ・高齢化率が高いため，地域の誤嚥性肺炎の発生予防のため，口腔ケアから嚥下造影検査まで，島民一人一人の“口から食べる”機能を温存するための考え方，知識，技術も経験できます． ・当院では，低栄養・ADL 低下などによる褥瘡患者も積極的に診療しております．静脈系腸栄養学会の認定の指導による栄養状態の評価，栄養療法，また，内科系の医師でも可能な褥瘡の処置などを経験していただけます． ・年間400件程度の救急対応，また，月４回ほどの島外への医療搬送を経験していただきます．そのための，内科・外科問わない救急医学の知識，AHA のガイドラインに基づく心肺蘇生の技術，搬送中の患者アセスメントの技術，医療器材の使用方法などを習得していただきます．
経験できる地域医療・診療連携 学会認定施設 （内科系）	・連携している特別養護老人ホームへの訪問診療及び急変時の診療連携 ・地域における産業医，学校医等としての役割 ・島内各診療所及び施設との診療連携及び急変時の診療連携 ・本院退院後の患者の往診など

3)専門研修特別連携施設
夕張市立診療所

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	･初期医療研修における地域医療研修施設です。 ･研修に必要な医局図書とインターネット環境(Wi-Fi)があります. ･夕張市立診療所非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処するスタッフ(心療内科医)がおります。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修 プログラムの環境	･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置 されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療安全・感染対策委員会を毎月開催し，専攻医に参加を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け， そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスは定期的に開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科および救急の分野で定常的に研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 診療所長:前沢 政次 2019 年から夕張市立診療所の所長として赴任しました。 。1988 年から宮城県涌谷町で地域包括ケアシステムの構築、北海道大学で総合医(家庭医)の養成、京極町で認知症ケアや福祉介護との連携、福祉施設での看取りに取り組んできました。夕張では住民の方々と共に「心寄せ合い、共に創る医療」を目指しています。24 時間 365 日オンコール体制で、在宅療養支援診療所です。 外来は総合診療科で、内科、小児科のみならず、僻地診療所の利点を活かし、社会医療法人の支援による専門外来(整形外科・循環器内科・耳鼻科・泌尿器科)も開設しており、さまざまなニーズにお応えできるように努力しております。 また福祉介護施設との連携、健診・ドックの充実 にも努めています. 入院診療は，高齢者の感染症や心不全等が主となります。在宅医療は，訪問診療と往診を行っています. 病棟・外来・訪問看護・介護系職員・訪問薬剤師等の多職種連携により実施しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 0 名，日本内科学会総合内科専門医 0 名 日本神経学会神経内科専門医 0 名
外来・入院 患者数	外来患者 1323 名(1 ヶ月平均) 入院患者 12.7 名(1 日平均)
病床	19 床
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通 じて，広く経験することとなります. 複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の 療養方針の考え方などについて学ぶことができます。

経験できる技術・技能	・診療所、病院で日常診療に参画し、地域医療における医師の役割を学ぶ。 ・プライマリケアの必要性を理解し、全人的医療が実践できる。 ・入院患者を受け持ち、退院、在宅療養計画を指導医・コメディカルとともに立案する。 ・医療機関の役割分担を理解し、医療・介護保険・サービスなどについて 学習し、効率のよい医療サービスが提供できる。
経験できる地域医療・診療連携	・研修施設が担当している地域保健活動に従事する。 ・指導医の同行のもと在宅患者への往診、訪問診療を経験する。
学会認定施設（内科系）	なし

3)専門研修特別連携施設
日高徳洲会病院

施設名	医療法人徳洲会　日高徳洲会病院
認定基準 1)専攻医の環境	・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室整備しています。 女性専攻医でも対応可能な環境です。 ・インターネット環境・Wi-Fi も利用出来ます。 ・院内に保育園や学童保育所、病児保育があり，24 時間保育利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・プログラム管理者が連携基幹病院の研修委員会との密な連携をはかります。 ・医療安全，医薬品安全，医療機器安全，感染対策と ICT・ICC のラウンドや各種委員会へ参加して頂きます。
認定基準 3)診療経験の環境	主に総合診療科，救急，訪問診療等による地域密着型の医療・症例の研修が可能です。
認定基準 4)学術活動の環境	
指導責任者	日本東洋医学会指導医・漢方専門医　井齋　偉矢
指導医数 （常勤医）	
外来・入院　患者数	総入院延べ数 55,651 名／年・総外来延べ数 52,206 名／年
経験できる疾患群	僻地医療ならではの，急性期・救急から維持期・慢性期まで幅広い症例や都市圏病院との連携業務。又，訪問診療・看取り等の高齢者医療
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術と技能を実際の症例から幅広く経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	2 次医療圏の為、重篤な症例の際には札幌市や苫小牧市の大規模病院と連携しドクターヘリ搬送や救急搬送があります。 超高齢化地域であることからも地域に根差した医療・病診・病病連携を経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	

資料5

医療法人徳洲会
札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム管理委員会

（令和 5 年 4 月現在）

医療法人徳洲会　札幌東徳洲会病院	
山崎誠治	プログラム責任者、委員長、循環器分野責任者
太田智之	院長　プログラム管理者、消化器内科分野責任者
前本篤男	消化器内科分野・IBD 部門責任者
○○○○	神経内科分野責任者
安尾和裕	総合診療責任者
山﨑成夫	呼吸器分野責任者
丸藤哲	救急・感染分野責任者
竹島裕美	看護部長
武田清孝	コメディカル長
岸郁夫	事務部長

連携(特別)施設担当委員	
旭川医科大学病院	佐藤伸之先生
勤医協中央病院	湯野暁子先生
札幌徳洲会病院	折居史佳先生
市立千歳市民病院	池田大輔先生
帯広徳洲会病院	中藤正樹先生
市立旭川病院	斉藤裕輔先生
旭川厚生病院	小川裕二先生
旭川赤十字病院	藤井常志先生
名寄市立総合病院	鈴木康秋先生
遠軽厚生病院	塩越隆広先生
町立中標津病院	久保光司先生
名古屋徳洲会総合病院	青山英和先生
共愛会病院	水島豊先生
利尻島国保中央病院	淺井悌先生
夕張市立診療所	前沢政次先生
日高徳洲会病院	井齋偉矢先生
オブザーバー	内科専攻医代表

資料6

医療法人徳洲会　札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム
専攻医研修マニュアル

1）専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は，
(1) 高い倫理観を持ち，(2) 最新の標準的医療を実践し，(3) 安全な医療を心がけ，(4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。
内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，
① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
② 内科系救急医療の専門医
③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
④ 総合内科的視点を持った Subspecialist
に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。
札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，北海道札幌市北東部医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です。
札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム終了後には，札幌東徳洲会病院内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく，専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する，または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2）専門研修の期間

内科専門研修期間は 3 年間です。

3）研修施設群の各施設名（P.20「札幌東徳洲会病院研修施設群」参照）

【基　幹　施　設】 医療法人徳洲会　札幌東徳洲会病院
【連　携　施　設】 旭川医科大学病院、勤医協中央病院、札幌徳洲会病院、市立千歳市民病院
帯広徳洲会病院、市立旭川病院、旭川厚生病院、旭川赤十字病院　名寄市立総合病院、遠軽厚生病院、町立中標津病院、共愛会病院、名古屋徳洲会総合病院
【特別連携施設】 利尻島国保中央病院、夕張市立診療所、日高徳洲会病院

4）プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P.43「札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）
指導医師名(P.52 資料 8)

5）各施設での研修内容と期間

専攻医 2 年目の夏に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間，連携施設、特別連携施設で研修をします。

6） 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である札幌東徳洲会病院診療科別診療実績を以下の表に示します。札幌東徳洲会病院は地域基幹病院であり、コモンディジーズを中心に診療しています。

＊神経、呼吸器、腎臓、代謝、内分泌、血液、膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め，1 学年4名に対し十分な症例を経験可能です。

＊13 領域の専門医が少なくとも１名以上在籍しています（P.20「札幌東徳洲会病院内科専門研修施設群」参照）。

7） 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず，内科として入院患者を順次主担当医として担当します。

主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます。

専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は，受持ち患者の重症度などを加味して，担当指導医，Subspecialt 上級医の判断で 5～10 名程度を受持ちます。感染症，総合内科分野は，適宜，領域横断的に受持ちます。

8） 自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。

評価終了後，1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け，その後の改善を期して最善をつくします。

２回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医からのフィードバックを受け，さらに改善するように最善をつくします。

9） プログラム修了の基準

①日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下のｉ）～vi）の修了要件を満たすこと。

i） 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済みです（P.52 別表 1「札幌東徳洲会病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。

ii） 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています。

iii） 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で2件以上あります。

iv） JMECC 受講歴が 1 回あります。

v） 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります。

vi） 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性があると認められます。

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを札幌東徳洲会病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し，研修期間修了約 1 ヵ月前に札幌東徳洲会病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は3年間とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を1年単位で延長することがあります。

10）専門医申請にむけての手順
日本専門医機構のホームページを参照して、その手順に則って申請をしてください。
不明な点は（問い合わせ先）札幌東徳洲会病院臨床研修センター　011-722-1110
E-mail：ishi_kenshu@higashi-tokushukai.or.jp　（研修センター事務担当）
HP：http://www.higashi-tokushukai.or.jp/

11）プログラムにおける待遇，ならびに各施設における待遇
在籍する研修施設での待遇については，各研修施設での待遇基準に従う
（P.20「札幌東徳洲会病院研修施設群」参照）。

12）プログラムの特色
① 本プログラムは，北海道札幌市医療圏の中心的な急性期病院である札幌東徳洲会病院を基幹施設として、近隣医療圏および北海道地域にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。

② 札幌東徳洲会病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するというとだけではなく，主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

③ 基幹施設である札幌東徳洲会病院は，北海道札幌市医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です。一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

④ 基幹施設である札幌東徳洲会病院での１年間（専攻医　２年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.61 別表 1「札幌東徳洲会病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。

⑤ 札幌東徳洲会病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 3 年目の 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します。

⑥ 基幹施設である札幌東徳洲会病院で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（P.52 別表1「札幌東徳洲会病院 疾患群 症例病歴要約 到達目標」参照）。少なくとも通算で 56 疾患群 160 症例以上を主担当医として経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。

13）継続した Subspecialty 領域の研修の可否
･カリキュラムの知識，技術・技能を深めるために，総合内科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科検査を担当します．結果として，Subspecialty 領域の研修につながることはあります。
･カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます。

14） 逆評価の方法とプログラム改良姿勢
専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います。その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

15） 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

16） その他　　特になし

整備基準 45 に対応

資料7

医療法人徳洲会　札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム
指導医マニュアル

1）専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割
・1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
・担当指導医は，専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録するので，その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
・担当指導医は，専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群，症例の内容について，都度，評価・承認します。
・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センター（仮称）からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialt の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します。
・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います。
・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行います。

2）専門研修の期間
・年次到達目標は，P52 別表 1「札幌東徳洲会病院内科専門研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴提出数」について」に示すとおりです。
・担当指導医は，札幌東徳洲会病院専攻医臨床研修センターと協働して，3 ヵ月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手 Web 版への記入を促します。また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
・担当指導医は，札幌東徳洲会病院専攻医臨床研修センターと協働して，6 ヵ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
・担当指導医は，札幌東徳洲会病院専攻医臨床研修センターと協働して，6 ヵ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
・担当指導医は，札幌東徳洲会病院専攻医臨床研修センターと協働して，毎年 8 月と 2 月に自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．評価終了後，1 ヵ月以内に担当指導は専攻医にフィードバックを行い，形成的に指導します。2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医はフィードバックを形成的に行って，改善を促します。

3）専門研修の期間
・担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います。
･研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて，当該患者の電子カルテの記載，退院サマリー作成の内容などを吟味し，主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし，担当指導医が承認を行います。
・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として，担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除，修正などを指導します。

4) 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の利用方法
・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
・担当指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
・専攻医が作成し，担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録，出席を求められる講習会等の記録について，各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します．担当指導医と札幌東徳洲会病院専攻医臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
・担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し，修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた指導医の指導状況把握
専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた無記名式逆評価の集計結果を担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．集計結果に基づき，札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い
必要に応じて，臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医自身の自己評価，担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い，その結果を基に札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い，専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては，担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇
札幌東徳洲会病院給与規定によります。

8) FD 講習の出席義務
厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用
内科専攻医の指導にあたり，指導法の標準化のため，日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し，形成的に指導します。

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

札幌東徳洲会病院　内科専門指導医

(令和４年４月現在) 資料8

氏　名		所　属		役　職
山崎	誠治	札幌東徳洲会病院	循環器内科	副院長 内科責任者
太田	智之	札幌東徳洲会病院	消化器内科	院長
木村	圭介	札幌東徳洲会病院	消化器内科	主任部長
坂本	淳	札幌東徳洲会病院	消化器内科	部長
前本	篤男	札幌東徳洲会病院	IBD センター	副院長・センター長
古川	滋	札幌東徳洲会病院	IBD センター	部長
安尾	和裕	札幌東徳洲会病院	総合診療部	部長
長谷部	直幸	旭川医科大学病院第一内科		教授
大崎	能伸	旭川医科大学病院呼吸器センター		教授
川村	祐一郎	旭川医科大学病院第一内科(保健管理センター)		教授
長内	忍	旭川医科大学病院第一内科		特任教授
佐藤	伸之	旭川医科大学病院第一内科		准教授
赤坂	和実	旭川医科大学病院第一内科（臨床検査・輸血部）		准教授
竹内	利治	旭川医科大学病院第一内科		講師
山本	泰司	旭川医科大学病院第一内科（呼吸器センター）		助教
藤野	貴行	旭川医科大学病院第一内科		助教
田邊	康子	旭川医科大学病院第一内科		助教
片山	隆行	旭川医科大学病院第一内科		講師
坂本	央	旭川医科大学病院第一内科		診療助教
中川	直樹	旭川医科大学病院第一内科		助教
蓑島	暁帆	旭川医科大学病院第一内科		診療助教
澤田	潤	旭川医科大学病院第一内科		助教
佐々木	高明	旭川医科大学病院呼吸器センター		助教
松木	孝樹	旭川医科大学病院第一内科		助教

杉山	英太郎	旭川医科大学病院第一内科	特任助教
齋藤	司	旭川医科大学病院第一内科	助教
羽田	勝計	旭川医科大学病院第二内科	教授
牧野	雄一	旭川医科大学病院第二内科	准教授
安孫子	亜津子	旭川医科大学病院第二内科	講師
麻生	和信	旭川医科大学病院第二内科	講師
藤田	征弘	旭川医科大学病院第二内科	助教
岡本	健作	旭川医科大学病院第二内科	助教
北野	陽平	旭川医科大学病院第二内科	助教
滝山	由美	旭川医科大学病院第二内科	特任准教授
玉木	陽穂	旭川医科大学病院第二内科	特任助教
小林	厚志	旭川医科大学病院救急医学講座	助教
鳥本	悦宏	旭川医科大学病院第三内科	教授
藤谷	幹浩	旭川医科大学病院第三内科	准教授
生田	克哉	旭川医科大学病院第三内科	講師
盛一	健太郎	旭川医科大学病院第三内科	講師
進藤	基博	旭川医科大学病院第三内科	講師
笹島	順平	旭川医科大学病院第三内科	特任助教
澤田	康司	旭川医科大学病院第三内科	助教(学内講師)
後藤	拓磨	旭川医科大学病院第三内科	助教
嘉島	伸	旭川医科大学病院第三内科	助教(学内講師)
上野	伸展	旭川医科大学病院第三内科	助教(学内講師)
奥村	利勝	旭川医科大学病院総合診療部	教授
野津	司	旭川医科大学病院総合診療部	准教授
高橋	賢治	旭川医科大学病院第二内科	医員
竹田	安孝	旭川医科大学病院第二内科	医員

田村	裕昭	勤医協中央病院リウマチ科	名誉院長
中野	亮司	勤医協中央病院呼吸器内科	副院長
臺野	巧	勤医協中央病院総合診療科	副院長・内科科長
森園	竜太郎	勤医協中央病院消化器内科	内科副科長
河野	龍平	勤医協中央病院脳神経内科	内科副科長
松本	巧	勤医協中央病院リウマチ科	内科副科長
剱持	喜之	勤医協中央病院呼吸器内科	内科副科長
奥山	道記	勤医協中央病院循環器内科	内科副科長
水尾	仁志	勤医協中央病院消化器内科	内科医長
内沢	政英	勤医協中央病院消化器内科	内科医長
古山	準一	勤医協中央病院消化器内科	内科医長
入宇田	智子	勤医協中央病院腎臓内科	内科医長
高木	秀雄	勤医協中央病院消化器内科	内科医長
湯野	暁子	勤医協中央病院代謝内分泌科	内科医長
桂川	高雄	勤医協中央病院リウマチ科	内科医長
郡司	尚玲	勤医協中央病院循環器内科	内科医長
福原	正憲	勤医協中央病院呼吸器内科	内科医長
佐賀	智之	勤医協中央病院血液内科	内科医長
折居	史佳	札幌徳洲会病院 IBD センター	部長
伊藤	昭英	市立千歳市民病院内科	院長
吉田	貴之	市立千歳市民病院内科	主任医長
池田	大輔	市立千歳市民病院循環器科	診療科長
小岩	弘明	市立千歳市民病院循環器科	主任医長
中藤	正樹	帯広徳洲会病院	副院長
斉藤	裕輔	市立旭川病院	副院長
小川	裕二	旭川厚生病院	副院長

藤井	常志	旭川赤十字病院	院長補佐
鈴木	康秋	名寄市立総合病院	副院長
塩越	隆広	遠軽厚生病院	副院長
久保	光司	町立中標津病院	副院長
金子	登	共愛会病院	副院長
青山	英和	名古屋徳洲会総合病院	副院長
前沢	政次	夕張市立診療所	所長

別表 1 各年次到達目標

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること。

	内容	専攻医 3 年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医 3 年修了時 修了要件	専攻医 2 年修了時 経験目標	専攻医 1 年 修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分 野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5 以上※1※2	5 以上※1		3※1
	循環器	10	5 以上※2	5 以上		3
	内分泌	4	2 以上※2	2 以上		3※4
	代謝	5	3 以上※2	3 以上		
	腎臓	7	4 以上※2	4 以上		2
	呼吸器	8	4 以上※2	4 以上		3
	血液	3	2 以上※2	2 以上		2
	神経	9	5 以上※2	5 以上		2
	アレルギー	2	1 以上※2	1 以上		1
	膠原病	2	1 以上※2	1 以上		1
	感染症	4	2 以上※2	2 以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70 疾患群	56 疾患群（任意選択含む）	45 疾患群（任意選択含む）	20 疾患群	29 症例※ 3（外来は最大 7）
症例数※5		200 以上（外来は最大 20）	160 以上（外来は最大 16）	120 以上	60 以上	

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。（ 全て異なる疾患群での提出が必要）

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
例）「内分泌」2 例 +「代謝」1 例，「内分泌」1 例 +「代謝」2 例

※5　初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる。

札幌東徳洲会病院内科専門研修　週間スケジュール(例)総合内科中心（別表2）

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td>Am7:00 医局会</td><td colspan="5">初期研修医・専攻医合同朝カンファレンス(8:00～9:00)</td></tr>
<tr><td colspan="3">内科外来</td><td rowspan="4">訪問診療</td><td colspan="2">内科外来</td></tr>
<tr><td colspan="3">入院患者診療および検査または救急外来</td><td colspan="2">入院患者診療および検査または救急外来</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td colspan="3">入院患者診療および検査</td><td>入院患者診療および検査</td><td rowspan="3">担当患者の病態に応じた診療 /オンコール / 当直など</td></tr>
<tr><td colspan="3">入院患者カンファレンス、当直またはオンコールへの申し送り</td><td>患者カンファレンス、当直またはオンコールへの申し送り</td></tr>
<tr><td colspan="3">担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 夕診/当直など</td><td>担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 夕診/当直など</td></tr>
</table>

札幌東徳洲会病院内科専門研修　週間スケジュール(例)消化器内科中心

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜日</th></tr>
<tr><td>7:00～8:00</td><td>医局会</td><td colspan="2"></td><td>7:30～
英語抄読会</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8:00～9:00</td><td colspan="2">病棟回診および初期研修医
カンファレンス指導</td><td>外科・放射線科
合同カンファレンス</td><td colspan="2">病棟回診および初期研修医
カンファレンス指導</td><td>チームカンファレンス</td></tr>
<tr><td>9:00～12:00</td><td>※外来</td><td>内視鏡検査</td><td>※※救急
オンコール</td><td>内視鏡検査</td><td>内視鏡検査</td><td>外来 or
内視鏡検査
（輪番）</td></tr>
<tr><td>12:00～13:00</td><td colspan="6">昼休み</td></tr>
<tr><td>13:00～</td><td colspan="2">内視鏡検査・処置</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td>14:00</td><td>病棟多職種カンファレンス</td><td>内視鏡
検査・処置</td><td rowspan="2">※※救急
オンコール</td><td rowspan="2">内視鏡検査
処置
病棟回診</td><td rowspan="2">内視鏡検査
処置
病棟回診</td></tr>
<tr><td>～17:00</td><td colspan="2">内視鏡検査・処置
病棟回診</td></tr>
<tr><td>17:00～</td><td></td><td>外科症例
カンファレンス</td><td></td><td></td><td>夜間外来
（～19 時）</td></tr>
</table>

札幌東徳洲会病院内科専門研修　週間スケジュール(例)循環器内科中心

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td>Am7:00 医局会</td><td colspan="5">循環器カンファレンス</td></tr>
<tr><td>入院患者診療</td><td>内科外科合同
カンファレンス</td><td>抄読会</td><td colspan="3">入院患者診療</td></tr>
<tr><td>循環器外来</td><td colspan="5">入院患者診療および循環器検査</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td colspan="5">入院患者診療および循環器検査</td><td rowspan="2">担当患者の病態に応じた診療 /オンコール / 当直など</td></tr>
<tr><td colspan="5">入院患者カンファレンス、当直またはオンコールへの申し送り</td></tr>
<tr><td colspan="6">担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 当直など</td></tr>
</table>

・上記はあくまでも例：概略です。
・内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
・入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty） などの入院患者の診療を含みます。
・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty） の当番として担当します。
・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

札幌東徳洲会病院内科専門研修プログラムローテート表

【内科基本コース】(例)

基幹施設 1 年(必修)＋連携施設 1 年(必修)＋基幹・連携・特別連携 1 年（地域医療施設 3 ヶ月含む）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年目	総合内科			循環器内科			消化器内科			血液・腫瘍内科		
	JMECC を受講											
2 年目	帯広徳洲会病院 共愛会病院 日高徳洲会病院			基幹施設・連携施設での選択研修								
3 年目	基幹施設・連携施設・特別連携施設での選択研修											

【消化器内科サブスペシャリティコース】(例)

基幹施設 1 年(必修)＋連携施設 1 年(必修)＋基幹・連携・特別連携 1 年（地域医療施設 3 ヶ月含む）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年目	消化器内科											
	JMECC を受講											
2 年目	帯広徳洲会病院 共愛会病院 日高徳洲会病院			基幹施設・連携施設での選択研修								
3 年目	基幹施設・連携施設・特別連携施設での選択研修											

【循環器内科サブスペシャリティコース】(例)

基幹施設 1 年(必修)＋連携施設 1 年(必修)＋基幹・連携・特別連携 1 年（地域医療施設 3 ヶ月含む）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年目	循環器内科											
	JMECC を受講											
2 年目	帯広徳洲会病院 共愛会病院 日高徳洲会病院			基幹施設・連携施設での選択研修								
3 年目	基幹施設・連携施設・特別連携施設での選択研修											

必修研修

選択研修

札幌東徳洲会病院　旭川医科大学病院　勤医協中央病院　札幌徳洲会病院　市立千歳市民病院　帯広徳洲会病院　市立旭川病院　旭川厚生病院　旭川赤十字病院　名寄市立総合病院　遠軽厚生病院　町立中標津病院　共愛会病院　名古屋徳洲会総合病院　＊利尻島国保中央病院　＊夕張市立診療所　＊日高徳洲会病院　（＊特別連携施）